

市で初めての国宝誕生へ



10月16日(金)に開催された文化庁の文化審議会は、石清水八幡宮本社10棟を、国宝に指定しよう。文部科学大臣に答申しました。その後、文化庁内部の手続きを経て、官報告示をもって、市内初の国宝が誕生することになります。

石清水八幡宮は、貞観2(860)年の創建以来、公家や武家をはじめとして、広く崇敬を集めました。

創建後はたびたび社殿を焼失するものの、その都度復興し、近世初頭には、天正8(1580)年の織田信長による社殿修復に続き、慶長3(1598)年から豊臣秀頼による境内再興が行われました。

現在の本社社殿群は、寛永11(1634)年に江戸幕府により造替されたものです。本殿は、桁行11間の内殿と外殿を前後に並べて複合させた、壮大な規模をもつ八幡造本殿で、国内の同形式の本殿の中では現存最古で最大規模です。

本社社殿群は、長大な八幡造形式の本殿と、独特な空間秩序を持つ幣殿及び舞殿等を瑞籬や廻廊で囲み、緊密に一体化した構成になり、古代に成立した荘厳な社殿形式を保持しつつ、近世的な装飾を兼ね備えた完成度の高い近世神社建築として、極めて高い価値を有しています。

石清水八幡宮本社10棟 文化審議会が答申

国宝指定される文化財

- 本殿、撰社武内社本殿
- 瑞籬、幣殿及び舞殿
- 楼門、東門、西門
- 廻廊 (3棟)
- 附 棟札 3枚

撰社武内社本殿



本殿、幣殿及び舞殿 (外観)



東門



西門



廻廊3棟



瑞籬

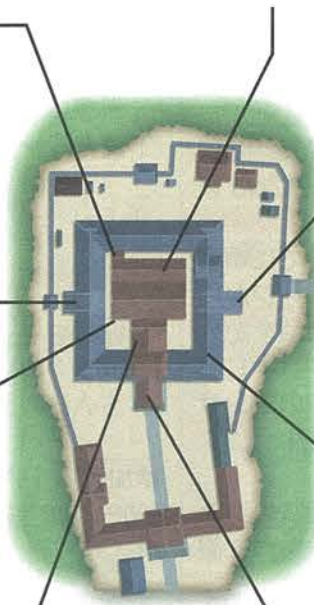
※瑞籬…本殿・撰社武内社本殿を画するためにめぐらされた塀



幣殿及び舞殿



楼門



◆問い合わせ 文化財保護課